

日本史

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本史概論	日本史概説1	2	柳原 敏昭、籠橋 俊光、安達 宏昭	3	木曜2限
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕、柳原 敏昭、籠橋 俊光、安達 宏昭	4	木曜2限
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	3	水曜4限
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火曜3限
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	4	火曜4限
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火曜3限
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水曜4限
日本史各論	日本中世史研究法	2	柳原 敏昭	5	月曜5限
日本史各論	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	5	金曜2限
日本史各論	地域社会に残る歴史資料の保全と継承を考える	2	佐藤 大介	5	集中講義
日本史各論	近代日本の軍隊・戦争と地域社会	2	山本 和重	5	集中講義
日本史各論	古代畿内制の再検討	2	吉川 真司	6	月曜1限
日本史各論	近現代史における日本とアジア	2	安達 宏昭	6	水曜2限
日本史各論	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀 裕	6	金曜2限
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月曜3限
日本史演習	日本中世文書の国際発信に向けて(1)	2	柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK	5	月曜4限

日本史

日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	火曜2限
日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	火曜4限
日本史演習	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	5	火曜5限
日本史演習	近現代政治・社会史の研究(1)	2	安達 宏昭	5	水曜3限
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	水曜5限
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	金曜3限
日本史演習	鎌倉時代の裁判と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月曜3限
日本史演習	日本中世文書の国際発信に向けて(2)	2	柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK	6	月曜4限
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	6	火曜2限
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	火曜4限
日本史演習	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	6	火曜5限
日本史演習	近現代政治・社会史の研究(2)	2	安達 宏昭	6	水曜3限
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	水曜5限
日本史演習	古代史料研究(2)	2	堀 裕	6	金曜3限
日本史実習	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金曜4限、 金曜5限
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金曜4限、 金曜5限
アーカイブズ学演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	5	木曜2限

科目名：日本史概論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭、籠橋 俊光、安達 宏昭

コード：LB34201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本史概説 1

2・授業の目的と概要：本講義では、「モノ（物）」に注目して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。「モノ」とは、たとえば、古文書を入れた箱や、聖武天皇が使った筆、文字の刻まれた石など歴史的な由来をもった「モノ」のほか、金銀銅や石、硫黄などといった資源として有用な物質、あるいは何気ない机や椅子、食器なども考えられる。こうした様々な「モノ」に注目することで、たとえば政治史を学ぶだけでは気づけなかったようなひとびとの日常生活の変化や「文明化」、あるいは国際関係の変貌を明らかにすることが期待される。このような視点は、歴史研究の方法的な多様性を示すとともに、考古学や美術史、外国史、社会学などとの出会いともなるであろう。

3. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学び、理解すること

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（柳原）
2. 古代1（堀）
3. 古代2（堀）
4. 古代3（堀）
5. 中世1（柳原）
6. 中世2（柳原）
7. 中世3（柳原）
8. 近世1（籠橋）
9. 近世2（籠橋）
10. 近世3（籠橋）
11. 近現代1（安達）
12. 近現代2（安達）
13. 近現代3（安達）
14. 歴史学の現在（安達）
15. まとめ（堀・籠橋）

5. 成績評価方法：授業に対する意見提出などの授業への参加（30%）・レポート（70%）

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

受講生は、(1)原則として文学部に在籍する者と、(2)他学部の教職の関係から単位取得が必要な者、ならびに(3)4年生とする。

科目名：日本史概論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：堀 裕、柳原 敏昭、籠橋 俊光、安達 宏昭

コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本史概説 2

2・授業の目的と概要：本講義では、「人の移動」を通して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。いつの時代においても、日本列島の内外を舞台に、人びとは、移住や交易、旅、戦争などといった様々な目的で移動を繰り返してきた。その移動が、人びとの日常生活を支えていたり、新たな出会いを生んだほか、国家や地域の争いを引き起こしたり、社会構造を変えるなどをしてきた。講義を通して、一見固定的で、変化のないようにみえる「日本」という幻想を越えて、日本の歴史の特色や日本の文化とは何かが明らかになることが期待される。

3. 学習の到達目標：日本の歴史の概要を学ぶこと

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（安達）
2. 古代 1（堀）
3. 古代 2（堀）
4. 古代 3（堀）
5. 中世 1（柳原）
6. 中世 2（柳原）
7. 中世 3（柳原）
8. 近世 1（籠橋）
9. 近世 2（籠橋）
10. 近世 3（籠橋）
11. 近現代 1（安達）
12. 近現代 2（安達）
13. 近現代 3（安達）
14. 歴史学における人物（柳原）
15. まとめ（堀・籠橋）

5. 成績評価方法：授業に対する意見提出などの授業への参加（30%）・レポート（70%）

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講生は、原則として文学部に在籍する者と、他学部の教職の関係から単位取得が必要な者ならびに 4 年生とする。

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：水曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB33402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代史料講読

2・授業の目的と概要：日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。

(2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめ

5. 成績評価方法：(○) レポート[60%]・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど） [20%]

6. 教科書および参考書：随時、プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：火曜3限

semester：4 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中世史料講読

2. 授業の目的と概要： 歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

3. 学習の到達目標：基本的な中世史料を読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度） [40%]

6. 教科書および参考書：講義時にプリントを配布する。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

科目名：日本史基礎講読

曜日・講時：火曜 4 限

semester：4 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB42404, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料講読

2. 授業の目的と概要：日本古代史に関する史料の読解を行うことで、歴史史料読解の能力を養うことを目的とする。使用する史料は漢文史料である。受講生は、史料を読解し、各自報告を行う。

3. 学習の到達目標：日本古代の漢文史料の読解力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の漢文史料の読み方 (1)
3. 日本古代の漢文史料の読み方 (2)
4. 日本古代の漢文史料の読み方 (3)
5. 日本古代の漢文史料の読み方 (4)
6. 日本古代の漢文史料の読み方 (5)
7. 古代漢文史料を読む (1)
8. 古代漢文史料を読む (2)
9. 古代漢文史料を読む (3)
10. 古代漢文史料を読む (4)
11. 古代漢文史料を読む (5)
12. 古代漢文史料を読む (6)
13. 古代漢文史料を読む (7)
14. 古代漢文史料を読む (8)
15. まとめ と試験

5. 成績評価方法：筆記試験 (30%)・授業への参加 (70%)

6. 教科書および参考書：講義中プリントを配付

7. 授業時間外学習：配布された史料を講義の前に読んでおくこと、および復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：古文書学

曜日・講時：火曜3限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中世古文書読解入門

2・授業の目的と概要： 古文書とは、差出人と受取人が明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

3. 学習の到達目標：(1)中世の原文書を読解できるようになる。
(2)中世古文書学の基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の傳達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 讓状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

5. 成績評価方法：筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度） [20%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

科目名：古文書学

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB43404, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世古文書読解

2・授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

3. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。
(2)近世古文書の読解能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定・人別帳
11. 町方・村方文書 (2) 検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

5. 成績評価方法：出席[20%]・確認テスト[80%]

6. 教科書および参考書：随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史各論

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51501, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本中世史研究法

2. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

3. 学習の到達目標：(1) 日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2) 報告・討論の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度） [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

日本中世史で卒業論文を執筆する学生は必ず履修すること。

科目名：日本史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世社会の研究

2・授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。なお、近世史で卒論の執筆を検討している 3・4 年生は受講することが望ましい。

3. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

6. 教科書および参考書：講義中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスパワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史各論

曜日・講時：月曜 1 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：吉川 真司

コード：LB61101, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代畿内制の再検討

2・授業の目的と概要：日本古代の列島社会は、いくつかの地域ブロックの複合体だったと考えられる。なかでも、王都に直結し、王都を支える役割を果たした「畿内・近国ブロック」は、文献学的にも考古学的にも史料に恵まれ、その実態を認識しやすい。この地域については、畿内制という観点から研究が進められてきた。この講義では、畿内制という思考の枠組みを再検討することにより、日本古代の政治・社会・文化を深く理解することを目的とする

3. 学習の到達目標：日本史に関する基本的知識と史料読解能力を獲得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

いくつかの小テーマにつき、基本史料を綿密に読解して、通説的理解を超越する。内容と進度は以下のように予定している。

- 01 インTRODクシヨン
- 02 畿内・近国という地域
- 03 制度としての畿内 (1)
- 04 制度としての畿内 (2)
- 05 王族・豪族の活動基盤 (1)
- 06 王族・豪族の活動基盤 (2)
- 07 畿内の公民支配 (1)
- 08 畿内の公民支配 (2)
- 09 渡来人と品部・雑戸 (1)
- 10 渡来人と品部・雑戸 (2)
- 11 仏都と仏都圏 (1)
- 12 仏都と仏都圏 (2)
- 13 院宮王臣家の活動 (1)
- 14 院宮王臣家の活動 (2)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートによる評価を行なう。

6. 教科書および参考書：授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業資料を用いて復習し、史料読解能力を磨く。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史各論

曜日・講時：水曜 2限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代史における日本とアジア

2・授業の目的と概要：近現代日本とアジアの関係は、世界の中での日本の位置や抱えていた課題を示すものであった。本講義では、「大東亜共栄圏」、「大東亜国土計画」、東南アジア・中国華北地域への進出と支配について取り上げて、戦前・戦時期日本のアジア認識・構想と政策の特質を分析し、そのことを通して日本国内の政治経済構造や、国際政治上の位置について考察することを旨とする。具体的には、拙著『帝国日本のアジア支配』『大東亜共栄圏』の関連する章を取り上げて、受講生に内容の要約と感想を述べてもらい、それに対して授業担当者が回答・解説を加えていく形式で行う。

3. 学習の到達目標：(1) 近現代日本とアジアの関係について基礎的な事実を把握して理解できるようになる。
(2) 近現代日本の政治経済構想について理解できるようになる。
(3) 近現代における日本の国際社会での位置について理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス、概要、導入
- 第2回 近代日本とアジア
- 第3回 戦前期日本の東南アジア進出
- 第4回 「大東亜共栄圏」構想への道のり
- 第5回 「大東亜国土計画」の内容と特質(1)
- 第6回 「大東亜国土計画」の内容と特質(2)
- 第7回 「大東亜国土計画」の内容と特質(3)
- 第8回 「大東亜共栄圏」構想の内実(1)
- 第9回 「大東亜共栄圏」構想の内実(2)
- 第10回 「大東亜共栄圏」構想の内実(3)
- 第11回 「大東亜共栄圏」政策の展開(1)
- 第12回 「大東亜共栄圏」政策の展開(2)
- 第13回 「大東亜共栄圏」政策の展開(3)
- 第14回 「大東亜共栄圏」政策の展開(4)
- 第15回 戦後の日本とアジアとまとめ

5. 成績評価方法：期末レポート 60%、出席 20%、授業への参加姿勢（発表や質問、ミニッツペーパーの記入など） 20%

6. 教科書および参考書：教科書：安達宏昭『大東亜共栄圏—帝国日本のアジア支配構想—』中公新書、2022年。

参考書：安達宏昭『帝国日本のアジア支配—構想と政策—』吉川弘文館、2026年。

安達宏昭『「大東亜共栄圏」の経済構想』吉川弘文館、2013年。

その他、必要に応じて参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：教科書、配付したプリントを、授業のために予習や復習を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50 要予約

科目名：日本史各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB65209, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2・授業の目的と概要：開講時に、講義担当者が、もっとも関心を持つ日本古代史に関する研究テーマを取り上げて講義を行う。本年度は、おもに7世紀から11世紀までの「東北史」あるいは「辺境史」を取り上げる予定である。東北は東北だけで完結する訳ではない。①都から派遣された官人や、中央や地方の僧侶、都の有力者の使者、地域の有力者、坂東からの移民や、列島の各地に移動したエミシなどの人々の移動と交流を分析の基礎とする、②古代史研究にとって避けて通れない遺跡を中心にした考古学的な成果の受容と分析を行う、③たびたび引き起こされる戦争の具体的な分析とその特色を示す、④九州史のみならず、朝鮮史・中国史との比較研究をすすめる。これらの検討により、「東北史」・「辺境史」とは何かを考えるとともに、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、研究とはどのようなプロセスで形成されるのかを学ぶ機会としたい。

3. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を中心に、リアルタイムのオンライン授業も開く

1. どのような関心のもとに講義を行うか説明をする
2. 古代史講義 1 東北の寺院
3. 古代史講義 2 東北の寺院
4. 古代史講義 3 東北・九州の統治と中国・朝鮮
5. 古代史講義 4 東北・九州の統治と中国・朝鮮
6. 古代史講義 5 東北の古代の勢力 王臣家と在留国司
7. 古代史講義 6 東北の古代の勢力 任用国司の変化・地域有力者
8. 古代史講義 7 藤原実方と平安中期の受領・鎮守将軍
9. 古代史講義 8 藤原実方と平安中期の受領・鎮守将軍
10. 古代史講義 9 東北の荘園と小一条院
11. 古代史講義 10 東北の荘園と小一条院
12. 古代史講義 11 古代戦争と歴史研究
13. 古代史講義 12 古代戦争と歴史研究
14. 古代史講義 13 古代戦争と歴史研究
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（100%）

6. 教科書および参考書：講義中に提示する

7. 授業時間外学習：講義中にあげた参考論文や関連する史料を各自で読むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 大介

コード：LB98809, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：地域社会に残る歴史資料の保全と継承を考える

2・授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践の現状について、実地に活動している方々に直接お話を聞きつつ学びます。特に、日本で頻発している東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論などを通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

3. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1.17」の経験、「3.11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー

4 講義 原発被災地での活動①

5 講義 原発被災地での活動②

6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり

10 講義 史料を通じて地域と向き合う①

11 講義 史料を通じて地域と向き合う②

12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全

13 講義 史料保全の可能性①

14 講義 史料保全の可能性②

15 質疑応答

*各回の講義に、外部講師を招聘する予定である。

*上記は昨年度ベースのものであり、講義のより詳細な内容については、日程の確定および履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

5. 成績評価方法：・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） *日本語のみとします。

6. 教科書および参考書：・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

7. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

○

9. その他：

・講義は日本語で行います。

・学部4年生が受講する場合、事前の手続きにより、大学院生対象の「認定アーキビスト」の必修単位とすることが出来ます。

・講義の内容に、自然災害などの被災状況の紹介、写真や記録などの資料が含まれます。それらの内容を目にする・読むなどのことに不安がある受講者は、あらかじめ申し出てください。

科目名：日本史各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98810, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代日本の軍隊・戦争と地域社会

2. 授業の目的と概要：近代日本社会の特質を、軍隊・戦争という側面から把握する。とくに 1990 年代以降に登場した社会史・民衆史・地域史的軍事史研究による成果を示す。

講義で扱う歴史事象の概要は次の通り。

- I. 徴兵制の採用から、1880 年代における兵事事務体制の形成を経て、徴兵制確立後における町村の兵事行政について。
- II. 町村役場の兵事書類からわかる、日中戦争後における軍事動員の推移と召集の実態について。
- III. 戦時期には、応召による出征兵士家族の生活困難が社会問題化する。日清日露戦争期からアジア・太平洋戦争期までの軍事救護の推移について。
- IV. 軍隊・戦争と地域社会に関わる諸問題（軍事演習と損害補償、馬匹の徴発、戦死の公報と村葬・慰霊）について。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近代の軍事史をめぐる多様な視点について、理解できるようになる。

(2) 近年の社会史・民衆史・地域史的軍事史研究の成果と課題について、理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス並びに「軍隊・戦争の社会史的研究」の登場について
2. 徴兵制の採用と地域社会—兵事事務体制の形成—
3. 町村役場の兵事行政と町村兵事書類の焼却・残存
4. 日中戦争初期の動員と地域社会—上海戦線への特設師団の動員—
5. 1941 年夏の「関東軍特種演習」—陸軍史上空前の大規模動員と「秘密動員」の実態—
6. アジア・太平洋戦争末期の「根こそぎ」動員—第二国民兵の召集並びに陸軍兵の海軍兵への転籍—
7. 戦時応召者家族の生活救護①—1890 年陸軍給与令—
8. 戦時応召者家族の生活救護②—日清・日露戦争期—
9. 戦時応召者家族の生活救護③—第一次世界大戦後における労働者問題の登場と兵役義務者及廃兵待遇審議会答申（1930 年 12 月）—
10. 戦時応召者家族の生活救護④—満州事変と陸軍の社会政策—
11. 戦時応召者家族の生活救護⑤—「国体」論的軍事救護論と国家補償的施策の登場—
12. 軍事行動と地域社会—1920 年代における軍事演習と損害賠償問題—
13. 馬匹の徴発と軍馬の表象・表彰—馬籍簿・馬匹徴発告知書・軍馬功章など—
14. 戦死者をめぐる—戦死の公報と村葬・慰霊—
15. おわりに（試験）

5. 成績評価方法：試験 [80%]、授業への姿勢（毎回の講義への感想表記）[20%]

6. 教科書および参考書：講義内容に関するプリントを配付する。

参考書：

- 吉田裕『日本の軍隊—兵士たちの近代史—』岩波新書、2002
同 『日本軍兵士—アジア・太平洋戦争の現実』中公新書、2017
同 『続・日本軍兵士—帝国陸海軍の現実』中公新書、2025
荒川章二『増補 軍隊と地域 郷土部隊と民衆意識のゆくえ』岩波書店、2021
『上越市史』通史編 5、近代、2004
加藤陽子『徴兵制と近代日本 1868—1945』吉川弘文館、1996
山本和重「軍事援護」、林博史・原田敬一・山本和重編『地域のな

7. 授業時間外学習：事前に上記の参考書に目を通し、授業後は授業時に指示した文献や配付した史料の読解を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜3限

semester：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51308, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：鎌倉時代の法と社会(1)

2・授業の目的と概要： 鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。また、裁判記録も残されている。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、「裁許状」および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の裁判と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

3. 学習の到達目標：(1)中世史料の基礎的な読解力を身につける。
(2)報告・討論の方法の基礎を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

原則として対面

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK

コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本中世文書の国際発信に向けて(1)

2・授業の目的と概要： 鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。

3. 学習の到達目標：(1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
(2) 史料用語を概念化することに習熟する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

6. 教科書および参考書：テキストは授業中に配付する。参考書は、ジェフリー・マス『The Kamakura Bakufu: A Study in Documents』（スタンフォード大学出版会）。

7. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「日本中世文書の国際発信に向けて」(1)(2)は連続履修すること。中世史専攻以外を考えている学生の参加を歓迎します。

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 2限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要：史料を内容によって分類するならば、歴史書と法律、日記（古記録）、古文書、物語、聖教、歌、帳簿、記念碑などに分けることができる。このなかでも法律は、一見無味乾燥に見えるが、国や社会、生活を考えるために重要な史料である。日本古代史においては、律（刑法）・令（行政法）・格（単行法令）・式（施行細則）が著名である。なかでも、8世紀に編纂された養老令は、現在おおよそ全貌を知ることができる基本法典である。この養老令の各条文について、法律家（明法家）の考えをまとめた9世紀の私撰注釈書が『令集解』であった。本演習では、『令集解』に記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読する。これによって、唐から継受しつつも、独自の規定を生み出した日本古代法の特徴を明らかにし、あわせて日本古代の国家や社会の特色を析出する。

3. 学習の到達目標：日本古代の法典である令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス『令集解』とは何か。講読のすすめかた。
2. 『令集解』を読む（1）
3. 『令集解』を読む（2）
4. 『令集解』を読む（3）
5. 『令集解』を読む（4）
6. 『令集解』を読む（5）
7. 『令集解』を読む（6）
8. 『令集解』を読む（7）
9. 『令集解』を読む（8）
10. 『令集解』を読む（9）
11. 『令集解』を読む（10）
12. 『令集解』を読む（11）
13. 『令集解』を読む（12）
14. 『令集解』を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）報告および討論などでの授業参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史料研究（1）

2・授業の目的と概要：本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

3. 学習の到達目標：(1)近世史料についての基礎的な読解能力を身につける。

(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見するきっかけをつかむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 伊達騒動について(1)
3. 伊達騒動について(2)
4. 史料読解の報告と討論(1)
5. 史料読解の報告と討論(2)
6. 史料読解の報告と討論(3)
7. 史料読解の報告と討論(4)
8. 史料読解の報告と討論(5)
9. 史料読解の報告と討論(6)
10. 史料読解の報告と討論(7)
11. 史料読解の報告と討論(8)
12. 史料読解の報告と討論(9)
13. 史料読解の報告と討論(10)
14. 史料読解の報告と討論(11)
15. 史料読解の報告と討論(12)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、佐藤孝之監修『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史料研究（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2・授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

3. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜3限

Semester：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (1)

2. 授業の目的と概要：戦時期に昭和天皇の侍従長を務めていた百武三郎の日記が最近公刊された。この『百武三郎日記』を同時期の『木戸幸一日記』や『西園寺公と政局』、さらに『昭和天皇実録』などと照合して読解し、近代日本の政治中枢である天皇・宮中を中心に、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。
(2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
(3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料の概要
2. アジア・太平洋戦争中の天皇・宮中に関する研究の把握
3. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (1)
4. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (2)
5. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (3)
6. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (4)
7. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (5)
8. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (6)
9. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (7)
10. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (8)
11. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (9)
12. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (10)
13. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (11)
14. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

5. 成績評価方法：(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：史料は、随時、配付する。

参考文献

『百武三郎日記』全三巻 (岩波書店、2025年)

7. 授業時間外学習：『百武三郎』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB53502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近世史研究法 (1)

2・授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論 (1)

3. 受講者による報告と討論 (2)

4. 受講者による報告と討論 (3)

5. 受講者による報告と討論 (4)

6. 受講者による報告と討論 (5)

7. 受講者による報告と討論 (6)

8. 受講者による報告と討論 (7)

9. 受講者による報告と討論 (8)

10. 受講者による報告と討論 (9)

11. 受講者による報告と討論 (10)

12. 受講者による報告と討論 (11)

13. 受講者による報告と討論 (12)

14. 受講者による報告と討論 (13)

15. 受講者による報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史演習

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料研究（1）

2・授業の目的と概要：歴史史料のなかで王道というべきは歴史書である。歴史研究もその延長線上にあるといってもよい。本演習は、日本古代史研究に取り組む者が、一度は読んだことのある『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、8世紀を中心とした歴史書であり、現在講読している箇所は、聖武天皇即位後であり、長屋王の変や藤原光明子の立後のあたりになるであろう。これを用いて、古代史料の読解力を磨くとともに、史料としての扱い方に習熟するとともに、研究課題の抽出を行うことまで到達してほしい。授業は毎回担当者が報告を行う。なお、できれば、現地見学会を実施するほか、平安時代の法制史料『類聚三代格』も用いる。

3. 学習の到達目標：1 古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟

2 史料から研究課題を抽出する力を磨く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス 『続日本紀』と講読のすすめかたについての説明
2. 史料を読む（1）
3. 史料を読む（2）
4. 史料を読む（3）
5. 史料を読む（4）
6. 史料を読む（5）
7. 史料を読む（6）
8. 史料を読む（7）
9. 史料を読む（8）
10. 史料を読む（9）
11. 史料を読む（10）
12. 史料を読む（11）
13. 史料を読む（12）
14. 史料を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）報告と授業への参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）、同『類聚三代格』（同）必ずしも購入の必要はない。

7. 授業時間外学習：事前に講読過書の予習を行うこと。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜3限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61307, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：鎌倉時代の裁判と社会(2)

2・授業の目的と概要： 「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

3. 学習の到達目標：(1)中世史料の読解力を身につける。
(2)鎌倉時代の法と社会について理解を深める。
(3)報告・討論の方法の基礎を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
- 原則として対面

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下(吉川弘文館)。

7. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：月曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭、DAMICO JOHN CLARK

コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本中世文書の国際発信に向けて(2)

2・授業の目的と概要： 「日本中世文書の国際発信に向けて(1)」を踏まえて、受講者が日本中世文書を英訳することを試みる。中世文書としては、東北大学附属図書館所蔵「倉持文書」を用いる予定である。

3. 学習の到達目標：(1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
(2) 史料用語を概念化することに習熟する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

5. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは授業中に配付する。参考書は、ジェフリー・マス『The Kamakura Bakufu: A Study in Documents』(スタンフォード大学出版会)。

7. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本史演習「日本中世文書の国際発信に向けて」(1)(2)は連続履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：堀 裕

コード：LB62208, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2・授業の目的と概要：摂関期以降の研究を行うためには、平安時代の男性貴族が書いた古記録（日記）の読解が重要である。現在、藤原道長の書いた『御堂関白記』や、藤原行成の書いた『権記』など多くの古記録が残されており、私たちはそれらを通して、藤原道長が宮廷社会でどのような振る舞いをしていたのか、平安京での人々の暮らしはどのようなものであったのか、あるいは当時の地方社会や宋・高麗との関係を知ることができる。古記録のなかでも、藤原実資の書いた『小右記』は、藤原道長とはやや距離をとった立場で、詳細な記録を残しており、平安時代史研究にとっては必読の書である。『小右記』など平安時代中期の男性貴族の日記は、漢文で記されているものの、それまでの日本で書かれてきた史料とは異なって、和風の文法構造で書かれている。このため、読解にはやや習熟を要する。演習では、記載された内容の精読と、関連する史料の調査を行うこととする。これによって、古記録の扱い方を学び、古記録を利用した歴史像の構築の方法を理解する。なお、授業では各回担当者が報告する。

3. 学習の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、その読解能力を高める。古記録の内容から、平安時代の歴史像を構築する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『小右記』の概要と講読の方法を説明する。
2. 『小右記』を読む（1）
3. 『小右記』を読む（2）
4. 『小右記』を読む（3）
5. 『小右記』を読む（4）
6. 『小右記』を読む（5）
7. 『小右記』を読む（6）
8. 『小右記』を読む（7）
9. 『小右記』を読む（8）
10. 『小右記』を読む（9）
11. 『小右記』を読む（10）
12. 『小右記』を読む（11）
13. 『小右記』を読む（12）
14. 『小右記』を読む（13）
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11（岩波書店）

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB62407, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史料研究（2）

2・授業の目的と概要：「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1)近世史料についての読解能力を身につける。
(2)史料読解を通じて、自ら問題・関心を発見し深めていくきっかけをつかむ。
(3)卒業論文作成に向けて、史料から論点を導き出す方法を習熟する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料読解の報告と討論(1)
3. 史料読解の報告と討論(2)
4. 史料読解の報告と討論(3)
5. 史料読解の報告と討論(4)
6. 史料読解の報告と討論(5)
7. 史料読解の報告と討論(6)
8. 史料読解の報告と討論(7)
9. 史料読解の報告と討論(8)
10. 史料読解の報告と討論(9)
11. 史料読解の報告と討論(10)
12. 史料読解の報告と討論(11)
13. 史料読解の報告と討論(12)
14. 史料読解の報告と討論(13)
15. 史料読解の報告と討論(14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、佐藤孝之監修『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』（吉川弘文館）

7. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史料研究（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：火曜 5 限

semester：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB62504, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2・授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

5. 成績評価方法：() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 3 限

semester：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63310, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究（2）

2・授業の目的と概要：前期の史料講読の続講。『百武三郎日記』を『木戸幸一日記』や『西園寺公と政局』、『昭和天皇実録』など関連する史料などと照合して読解し、近現代日本の政治中枢であった天皇・宮中を中心に、政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
(2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
(3) 上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料の概要
2. アジア・太平洋戦争中期以降の陸軍に関する研究の把握
3. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (1)
4. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (2)
5. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (3)
6. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (4)
7. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (5)
8. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (6)
9. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (7)
10. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (8)
11. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (9)
12. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (10)
13. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (11)
14. 『百武三郎日記』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

5. 成績評価方法：(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

6. 教科書および参考書：史料は、随時、配付する。

参考文献

・『百武三郎日記』全三巻（岩波書店、2025年）

7. 授業時間外学習：『百武三郎日記』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究（1）（2）」（安達担当）は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習

曜日・講時：水曜 5 限

Semester：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB63505, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2・授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

3. 学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。
(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 受講者による報告・討論(1)
3. 受講者による報告・討論(2)
4. 受講者による報告・討論(3)
5. 受講者による報告・討論(4)
6. 受講者による報告・討論(5)
7. 受講者による報告・討論(6)
8. 受講者による報告・討論(7)
9. 受講者による報告・討論(8)
10. 受講者による報告・討論(9)
11. 受講者による報告・討論(10)
12. 受講者による報告・討論(11)
13. 受講者による報告・討論(12)
14. 受講者による報告・討論(13)
15. 受講者による報告・討論(14)

5. 成績評価方法：出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB65305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代史料研究 (2)

2・授業の目的と概要：歴史史料のなかで王道というべきは歴史書である。歴史研究もその延長線上にあるといってもよい。本演習は、日本古代史研究に取り組む者が、一度は読んだことのある『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、8世紀を中心とした歴史書であり、現在講読している箇所は、聖武天皇即位後であり、長屋王の変や藤原光明子の立後のあたりになるであろう。これを用いて、古代史料の読解力を磨くとともに、史料としての扱い方に習熟するとともに、研究課題の抽出を行うことまで到達してほしい。授業は毎回担当者が報告を行う。なお、できれば、現地見学会を実施するほか、平安時代の法制史料『類聚三代格』も用いる。

3. 学習の到達目標：1 古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟

2 史料から研究課題を抽出する力を磨く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とリアルタイム型オンライン授業の併用

1. ガイダンス 今期の『続日本紀』『類聚三代格』と講読のすすめかたについての説明

2. 史料を読む (1)

3. 史料を読む (2)

4. 史料を読む (3)

5. 史料を読む (4)

6. 史料を読む (5)

7. 史料を読む (6)

8. 史料を読む (7)

9. 史料を読む (8)

10. 史料を読む (9)

11. 史料を読む (10)

12. 史料を読む (11)

13. 史料を読む (12)

14. 史料を読む (13)

15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート (50%) 報告と授業への参加 (50%)

6. 教科書および参考書：テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)、同『類聚三代格』(同)

7. 授業時間外学習：事前に史料を読んでから演習に参加すること。報告を担当する場合は、予習をしてプリントを準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本史実習

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55403, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2・授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、一方でその史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

3. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論 (1)
5. アーカイブズの理論 (2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

5. 成績評価方法：出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず日本史実習「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：日本史実習

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB65408, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：史料整理実習

2・授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

3. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

5. 成績評価方法：出席[30%]・受講態度[70%]

6. 教科書および参考書：各自必要に応じて入力用パソコン・古文書解読用辞典類等を持参のこと。

7. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

必ず日本史実習「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：アーカイブズ学演習

曜日・講時：木曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LB54206, 科目ナンバリング：LHM-HIS314J, 使用言語：使用言語は日本語です。

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2・授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席[50%]・受講態度[40%]・レポート[10%]

6. 教科書および参考書：レジュメ随時配布

7. 授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：